

令和 6 年 6 月 15 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H04388

研究課題名（和文）BL等の表現の国際的な広がり、各国での現実のLGBTとの社会的関係の国際比較

研究課題名（英文）An International Comparison of the Global Spread of BL and Other Genres and Their Relationship with Actual LGBT People and Cultures in Various Countries

研究代表者

藤本 由香里（Fujimoto, Yukari）

明治大学・国際日本学部・専任教授

研究者番号：50515939

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：カナダ・メキシコ・フィリピン・マレーシア・台湾・韓国・タイ・フランス・ドイツ等で海外調査を行い、各国でのBL受容の実際、現実のLGBTQとの関係について調査を行い、AAS等の国際学会で報告を行った。

女性/ゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、BLファンと非ファンに分けて調査した2本のウェブ調査を実施し分析を行い、簡易報告書、単純集計の報告書をネットで発表。日本社会学会でも発表した。

2023年5月開幕の「はじめてのBL展」（角川武蔵野ミュージアム）に監修協力。11月に国際学会「<BL>の国際的な広がり、各国のLGBTQ」を、9か国19人の登壇者で日英両言語で開催し、研究成果を最終報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本においては「BLとゲイは対立するもの」という考え方が主流であったが、本研究によって改めて、海外ではBLファンとLGBTQの人々が協力してイベントを行う例が多くあることが確認された。各国でのイベントの特徴を角川武蔵野ミュージアムで行われた「はじめてのBL展」で世界地図にして示し、「BL年表」にもLGBTQに関する事項を盛り込み、両者の関係を示した。

最終国際会議「<BL>の海外への広がり、各国のLGBTQ」において各国の事例報告と、特にタイのBL文化についての詳しい報告と討議、女性/ゲイ・バイセクシュアル男性を対象にBLファンと非ファンに分けて行ったアンケート調査の結果も報告・共有した。

研究成果の概要（英文）：We conducted overseas surveys in Canada, Mexico, the Philippines, Malaysia, Taiwan, South Korea, Thailand, France, Germany, and other countries to investigate the actual acceptance of BL in each country and its relationship to real-life LGBTQ issues. We also shared our research findings via presentations at AAS and other international conferences.

In addition, we carried out and analyzed two web-based surveys of female BL fans and non-fans, and of gay and bisexual males. We shared a brief report on this survey as well as our survey data online. We also shared the results at the Japan Sociological Society.

Lead researcher Yukari Fujimoto oversaw and helped coordinate “Hajimete no BL-ten” (the First BL Exhibition), which opened in May 2023. In November of that year, we held the international conference “LGBTQ Issues and the Globalization of ‘BL’” which included 19 speakers from 9 countries, presenting in both Japanese and English, and we presented the final report of our research findings.

研究分野：マンガ/ジェンダー

キーワード：LGBT BL 表現と現実 社会学的意識調査 国際比較 伝播と変容

## 1. 研究開始当初の背景

1970年代に日本で少女マンガを起点として始まったBL文化(女性向けに男性同士の強い絆や恋愛・性愛を描いた作品群)はいまや海外各国に広がりつつある。しかし、日本と海外とではBLとLGBT当事者との関係に違いがあり、日本では「BLファンとゲイ当事者は対立するもの」と考えられてきたが、海外においてはBL(+百合)ファンとLGBT当事者が協同している事例も多く、BL文化を自分たちの表現の一部として受容するLGBT当事者も海外には想像以上に多いことはあまり知られていない。こうしたことが、研究代表者・藤本の在外研究での調査経験や、研究分担者のWelkerが2017年に主催した国際学会「Queer Transfigurations: International Symposium on Boys Love Media in Asia」(のちに『BLが開く扉』として書籍化)などから見えてきつつあった。

レズビアン立場からBL表現に関しても論考を重ねてきた溝口彰子が、その著書『BL進化論』で、近年では、現実の同性愛者に対して必ずしも差別的でないBL作品も増えていることを指摘し、そうしたBLを<進化形BL>と呼んで話題になったのも2015年のことである。

また日本では2016年放映の『おっさんずラブ』をきっかけにBL実写ドラマのブームが起こっていたが、2019年の研究開始後、2020年からコロナ禍を背景にタイBLドラマ、中華BLなどが日本に逆輸入されて人気を博すようになり、BL実写ドラマの人気はさらに高まった。フィクション性の高いマンガや小説と違ってドラマは実際の人々が演じるため、現実との互換性がより高くなる。また2015年頃から政府がLGBT理解増進に向けて旗振りを始めたこともあいまって、日本でも、フィクションとしてのBLと現実のLGBTとの境界がしだいに溶解する傾向が見られ始めた時期ともいえる。

## 2. 研究の目的

こうした背景を踏まえ、本プロジェクトでは、各国でBL(+百合)文化はどのように広がり、どのように受容され、また変容しているか、各国においてBL(+百合)文化と現実のLGBTとの関係はどのようなものであるか、を調査分析し、「LGBT当事者と、LGBT表現の享受者の協働の可能性」を明らかにしようとした。

また、日本国内で大規模な意識調査を行い、「BLファンであることは、LGBTへの理解を促進する方向に働くのか」を量的調査によって検討した。

## 3. 研究の方法

### (1) 海外調査

アメリカ・カナダ(OTAKUTHON)・メキシコ(Oops!/DokiDoki City)・フィリピン(BLush)・マレーシア(Comic Fiesta)・台湾(Comic Horizon 百合オンリーイベント)・韓国(みんなの百合)・タイ・フランス(Y/Con)・ドイツ(YaYuCo)等において、できるかぎり現地のBL(百合)イベントに合わせて調査を行い、どのような作品が頒布されているのか、日本のBL(百合)で翻訳されている・人気がある作品は何か、会場にはレインボーフラッグやレインボーグッズは見られるか、イベントとLGBT当事者はどのような関係にあるか等々を観察し、参加サークルや一般参加者の聞き取り調査を行った。また、イベント主催者や出版社、あるいは作家・BLドラマプロデューサーなどの関係者、研究者等に、現地のBLとLGBT当事者との関係について聞き取り調査を行うと共に、現地の書店やLGBTセンターなどを訪問し、調査を行った。

また、調査で知り合ったイベントの参加者を手掛かりに、シスジェンダー以外の海外BLファン(トランスジェンダー、ノンバイナリー等、出生時に振り当てられた性とは別の性自認をもつファン)のオンラインでの意識調査も行った。

### (2) 日本国内の意識調査

ジェンダー平等感覚や性的マイノリティへの寛容さなどを、次の2群を対象にBLの読者と非読者で意識比較を行った。

20~59歳の女性を対象としたインターネットモニタを対象とするクローズド型ウェブ調査で、予備調査をもとに「20~30代BL読者/非読者」「40~50代BL読者/非BL読者」を各400サンプル、計1600サンプルになるように割り付けた。

ゲイ・バイ男性対象にオープン型ウェブ調査もを行い、ジェンダー平等感覚やBLに対する意識などをたずねた。対象は18歳以上のゲイ・バイセクシュアル男性。GPSアプリ、各種SNSなどの誘導広告で調査への参加を依頼。有効回答数は4041人、そのうち「BL読者」は2538人だった。

## 4. 研究成果

### (1) 各国調査の概要

BLやYURI(=百合:「女性同士の愛」を描く表現)は、世界各地で開かれるコミック・コンベンションで確実な一隅を占めているのみならず、YAOI(やおい:BLの別名)・YURIを掲げた専門のコンベンションも欧米では珍しくない。

日本においては「BLとゲイは対立するもの」という考え方が主流であったが、本研究によって改めて、海外ではBLファンとLGBTQの人々が協力してイベントを行う例が多くあることが確認された。たとえば、アメリカのFlame ConやQueer&Comics、Niji Conなどに加え、メキシ

コシティの Doki Doki City、同じメキシコ・モンテレーの Oops! Summer Festa、カナダ・モン  
トリオール Otakuthon などでも、BL・百合等の表現のファンと現実の LGBT との自然な協働が  
見られ、LGBT 当事者がそうしたイベントの主催者となっているケースも多かった。いずれも比  
較的早くから同性婚が法的に認められてきた地域である。

大雑把に言えば、同性愛者がキリスト教的禁忌とみなされ差別されてきたゆえにゲイ解放運  
動が起こり、その結果、同性婚も認められていくなど、LGBT の存在が十分に可視化されてきた  
欧米においては、BL も LGBT 文化の一環として位置づけられ、BL ファンと LGBT 当事者が協働し  
てイベントを行う傾向にあり、一方、アジアにおいては、フィクションと LGBT 当事者の間には  
隔たりがある地域が多く、アジアで最初に同性婚が認められた台湾においても今なお緊張が続  
いていることが観察された。

だがアジアでもフィリピンなど、現実の同性愛者に対して厳しい目が向けられるところでは、  
BL ファンも隠れた活動を余儀なくされる一方で、だからこそ BL ファンと現実のゲイ男性たち  
が協働してイベントを行っている事実も確認された。同様に LGBT が厳しい状況に置かれている  
中国においても、BL 草創期の頃から BL ファンと現実のゲイ男性との交流・協働が活発に行わ  
れていたことが、藤本が指導した院生による調査で明らかにされている。

だが、同性婚が法制化されてかなりたつフランスの Y/Con においても、BL ファンと LGBT の  
ための「安全な場所」が希求されているために両者の協働が行われているなど、社会の中の BL・  
百合と現実の LGBT とのかかわりは一筋縄ではいかない。調査前には、フランスでは LGBT への  
理解が進んでいるがゆえに、当事者と BL ファンの協働が行われているものと推測していたので、  
これは意外な結果であった。メキシコなどでも、当事者も BL ファンも共通の抑圧と闘ってきた  
歴史があることが明らかになった。

ドイツにおいては、調査の結果、ナチスドイツ時代、ユダヤ人だけではなくゲイたちがピン  
クトライアングルのマークをつけられて強制収容所に入れられ、かなりの人が殺されたという  
経験が、ドイツの LGBT 運動の原点になっていることが判明した。YaYuCo (Yaoi & Yuri  
Convention) が、強制収容所で有名なダッハウで開かれていることにもそうした意図がある。  
また、イスラエルが中東で唯一、LGBT フレンドリーを標榜していることはよく「ピンクウオッ  
シュ」として批判されるが、この背景にも「強制収容所」という共通体験があることが推測さ  
れる。ちなみにドイツは、ヨーロッパでもっとも BL 人気が高い国である。

一方、タイで行った調査では、まだ同性婚等の制度的な支えはないものの、社会において LGBT  
の存在が日常的に可視化されており、インタビュー調査を通して、BL ドラマ等の制作現場に現  
実の LGBT が多数参加していることが、<BL>と現実の LGBT との回路を作っていることが推察さ  
れた。タイの BL 文化は日本マンガの輸入から始まっているが、K-Pop 文化から強い影響を受け  
ており、そこにリアリティショーなどを通じて育まれた強いカップル文化が合わさって、フィ  
クションと現実とを故意に交差させるような独特の BL 文化が成立していることが注目される。

また、われわれは、各イベントに調査に赴いた際、ほとんどの場合、現地のイベントでパネ  
ル発表を行い（たとえばカナダ OTAKUTHON、メキシコ Oops! Summe Festa・フィリピン BLush・  
フランス Y/Con・ドイツ YaYuCo、韓国ではソウル大学、タイではチュラロンコン大学/国際交  
流基金）、その他、アメリカの Queer & Comics や国際学会 AAS (Association for Asian Studies)  
などでも、パネルを組んで研究成果の発表を行った。

## (2) 国際学会「<BL>の海外への広まりと、各国の LGBTQ を開催（青土社で書籍化予定）

2022 年 10 月から日本のコロナ感染者数が世界でも突出した数字となったため、最終年度開  
催予定だった国際会議は翌 23 年に延期せざるを得なかったが、2023 年 11 月 25・26 日の 2 日  
間にわたって、研究成果の最終報告である国際会議「<BL>の海外への広がり、各国の LGBTQ」  
を、9 か国 19 人の登壇者で、各日 8 時間びっちりのスケジュールで、日英二か国語で開催した。  
1 日目は各国の事例報告と、女性/ゲイ・バイセクシュアル男性を対象に BL ファンと非ファン  
に分けて行ったアンケート調査の結果報告で、完全 2 か国語開催。2 日目は特にタイの BL 文化  
についての詳しい報告と、2 日間を終えての全体討議を、基本的に日本語ベース、キーノート  
スピーチのみ日英 2 か国語で行った。

各日 350 名以上の参加申し込みがあり、うち 100 人以上が外国人参加者であった。内容的に  
も非常に充実したシンポジウムとなり、東京新聞に大きな記事が掲載された。

東京新聞記事リンク：<https://www.tokyo-np.co.jp/article/298189>

告知とスケジュール：<https://www.meiji.ac.jp/nippon/info/2023/mkmht000000nkm5p.html>

1 日目のテーマは「各国事例報告と意識調査」で、メキシコ・フィリピン・フランスの BL イ  
ベントの事例報告から始まり、それぞれ国の事情は違っても、イベントが BL ファンと LGBT 当  
事者の協働によって行われていること、また、どの国でも BL も LGBT も差別と偏見にさらされ  
ており、イベント開催はそれとの闘いであることが語られた。午後には、日本の事例として「BL  
ファンとゲイ当事者の共同空間としての『ロマン JUNE』」、中国の事例として「『偽腐』の使わ  
れ方に見る中国人腐女子のゲイ意識」、韓国の事例として「韓国における女性ナラティブと BL・  
百合」、海外調査報告として「海外のノンシスジェンダーの BL・百合のファン」、そして国内の

意識調査の最終報告として、「BL ファンの意識に関する調査報告」を行った。

2 日目はとくにタイ BL に焦点をあて、「日本 BL のタイへの輸入史」から始まって、タイの BL ドラマの歴史、タイのカップリング文化、午後からはファンダムに焦点をあて、タイにおける BL ファンダム、日本におけるタイ BL の受容とそれに伴う問題性、タイでの関係者へのインタビュー調査の詳しい報告などを行い、基調講演として「BL と身体」、とくにタイにおける男性のもつ女性性の位置づけの変化に注目した発表が行われた。

両日とも各セッションではコメンテーターが発表者にさらなる質問を行い、活発な討議が行われた。最終討議では、日本でも BL ファンの方が非ファンよりも同性婚の支持率などが有意に高く、BL ファンと LGBT 当事者との協働の可能性があること、BL はフィクションではあるが、現実のゲイのライフスタイルに新しい選択肢を示しうる可能性があること、しかしながら、現在人気が高まってきた BL には商業主義の問題があること、BL と身体性の問題が今後の課題として残されること、などが語り合われた。

この国際会議は、前述の通り大きな新聞記事にもなったほか、SNS 等で広くシェアされ、英語での投稿も多く、各発表の要点を英語でかなりの確に発信してくれた人もいた。

<https://rentablog.org/2023/12/01/bl-and-its-place-in-lgbtq-media/>

内容の充溢した非常に意義のあるシンポジウムであり、青土社から単行本として刊行される予定である。

### ( 3 ) 国内意識調査

2021 年 2-3 月に実施した 2 本のウェブ調査 ( 女性票 = クローズド型モニタ調査・有効回答数 1524 票、ゲイ・バイセクシュアル男性票 = オープン型調査・有効回答数 4041 票 ) について分析を行い、2022 年度・23 年度中に 3 回の社会還元をした。1 回目は 2022 年 4 月であり、調査の紹介・調査者の属性や意識のうち限定した項目 ( 社会経済属性、ジェンダー観、同性愛 / ゲイに対するイメージ、性的マイノリティに対する意識、BL 読者のみ対象の設問 ) について簡易的な報告書を刊行した ( 執筆者は佐藤麻衣 [ 研究協力者 ]・石田仁 [ 研究分担者 ] )。

また、同年 12 月には 2 回目の社会還元として、調査票ならびに全項目の単純集計を報告書の形で公表した ( 執筆者は佐藤 )。これらの報告書は、いずれも PDF 形式とし、佐藤・石田の Research Map にアップロードし、オープンアクセスとした。

3 回目の社会還元として、2023 年 11 月の国際シンポジウム「BL の国際的な広がり」と各国の LGBTQ にて、佐藤が女性票、石田がゲイ・バイセクシュアル男性票についてクロス集計やロジスティック回帰分析などを用い、各種属性や態度 ( 社会経済属性、本人のセクシュアリティ、LGBT 関連活動への参加経験・参加意向、同性婚賛否、セクシュアル・マイノリティの現状に対する認識、BL ファンと LGBT 当事者の交流可能性、実社会の状況を BL に反映させることへの賛否、等 ) について、BL 読者 / 非読者の間にある異同やその要因を解析し報告した。

以上の 3 回の社会還元においては、主に以下のような点が明らかになった。

- 1 ) 性別にかかわらず、BL 読者は非読者に比べ、同性婚に賛成する人が多いこと
- 2 ) 女性の BL 読者は非読者に比べ、ジェンダー平等な考え方をもっていること
- 3 ) 女性の BL 読者は非読者に比べ、性的マイノリティに対し親和的であること

本研究課題が採択されたことで、国内調査班は、BL を主題とした調査をかつてない大規模サンプルで実施することができた。この調査研究は、BL と LGBT の関係性に関する今後の議論に実証データの側面から寄与するものと思われる。分析結果は、論文として執筆中である。

### ( 4 ) 「はじめての BL 展」( 角川武蔵野ミュージアム ) に監修協力

2023 年 5 月～7 月に角川武蔵野ミュージアムで開催された「はじめての BL 展」に藤本が筆頭監修協力者として協力した。堀あきこ氏・西原麻里氏の助けを得て、LGBT とのかかわりも意識した BL 年表を作成し、研究分担者であるウエルカーの助けも得て、世界の BL イベントとその特徴、LGBT とのかかわりなども記した「BL 世界地図」も作成。「はじめての BL 展」は、LGBT の歴史や BL の国際的な広がりも視野に入れた画期的な展示として、国内外から高い評価を得た。

会場には外国からの訪問者も多くみられ、会場に貼られたメッセージメモを見ても、さまざまな国、さまざまな文化の人が訪れたことがわかる。

### ( 5 ) 中国の BL と LGBT、BL 規制等をめぐる研究

藤本が指導する院生の修士論文という形であるが、本プロジェクトの視点を共有することで、中国の BL と LGBT の関係、中国の BL 規制等をめぐって新しい視点を開く論文がいくつか書かれた。

たとえば、張弛「中国のマンガサイトにおけるオリジナル BL マンガについて」では、中国の漫画アプリにおける人気 BL マンガと、日本における人気 BL マンガ作品を比較検討した結果、中国ではゲイ同士のカップルが最も多いのに対し、日本ではノンケ×ゲイの組み合わせが多く、



また中国の方がゲイであるゆえの苦しみ描かれることが多いなど、中国の人気作には、より現実のゲイを意識した作品が多いことがわかった。

また、欧卓英「「偽腐」の使われ方にみる中国人腐女子のゲイ意識」では、中国最大のBLファンサイトである「腐女子吧」で生まれた「偽腐」という言葉の使われ方を詳細に検討し、「偽腐」=現実のゲイに理解のない腐女子という使われ方が最も多く、「腐女子吧」では、新しく参入してくるBLファンに対し、現実のゲイへの理解や配慮、マナーを求める要請が強く行われていたことなどを明らかにした。この内容は、最終国際会議でも発表された。

なお、両論文とも、ゼミの卒論・修論集として自費出版され、頒布されている。

#### (6) 本研究に基づく出版・論文・発表など

本研究に関連する成果として、ジェームズ・ウェルカー編『BLが開く扉』(青土社) *Queer Transfigurations: Boys Love Media in Asia* (University of Hawaii Press)のほか、*Mechademia: Second Arc 13, No. 1 (special issue "Queer(ing))*、石田仁編『躍動するゲームーブメント』、堀あきこ・守如子編『BLの教科書』などの書籍や学術誌の特集の他、多くの論文、エッセイが執筆され、国内外の学会や関連イベントで多くの発表を行った(詳細は業績欄を参照)。

なお、本プロジェクトの最終報告として明治大学で開催した国際学会「<BL>の海外への広まりと、各国のLGBTQ」は青土社から刊行を予定している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計82件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 26件）

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 7
2. 論文標題 ライバルとシスターフッド : 『陽の末裔』～スカーレットとメラニー2	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Web平凡	6. 最初と最後の頁 1 - 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 6
2. 論文標題 ライバルとシスターフッド : 『ヨコハマ物語』～スカーレットとメラニー1	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Web平凡	6. 最初と最後の頁 1 - 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 5
2. 論文標題 ライバルとシスターフッド : 『はいからさんが通る』～私たちが殿方を選ぶのです!	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Web平凡	6. 最初と最後の頁 1 - 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 4
2. 論文標題 ライバルとシスターフッド : 『エースをねらえ』～お蝶夫人とひろみの愛	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Web平凡	6. 最初と最後の頁 1 - 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 3
2. 論文標題 ライバルとシスターフッド : 『プライド』～貧乏vs金持ちの構図の逆転(下)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Web平凡	6. 最初と最後の頁 1 - 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 2
2. 論文標題 ライバルとシスターフッド : 『プライド』～貧乏vs金持ちの構図の逆転(上)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Web平凡	6. 最初と最後の頁 1 - 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 ライバルとシスターフッド : 『アラベスク』～ライバルの原点	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Web平凡	6. 最初と最後の頁 1 - 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 あなたに似た人～伊藤理佐の絶妙なバランス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文藝別冊 総特集＊伊藤理佐	6. 最初と最後の頁 213 - 223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里 (企画・司会)	4. 巻 29
2. 論文標題 シンポジウム「BLのメディア史」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『マンガ研究』	6. 最初と最後の頁 210-260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 ポップカルチャー部門編者 (執筆は、扉ノ少女マンガ/マンガと表現規制)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 図書『ジェンダー事典』 (丸善出版)	6. 最初と最後の頁 607-609、618-619
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里 (対談)	4. 巻 1
2. 論文標題 「止まらない! BL今昔」 (大塚ひかり氏との対談)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 芸術新潮	6. 最初と最後の頁 76-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 MANGAウオッチ12「台湾の漫画」 (百合マンガ含む)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東京新聞	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 MANGAウオッチ6「これぞ、シスターフード！」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京新聞	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 MANGAウオッチ4「ルッキズムと笑い」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京新聞	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 MANGAウオッチ2「ロックミュージックと男同士の愛」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京新聞	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 MANGAウオッチ1・3・5・7・8・9・10・11 (連載)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京新聞	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 (書評)『世界史の中のヤバい女たち』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 読書人(新潮社BookBangに再録)	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 (書評)『ニジンスキーは銀橋をわたらない』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 共同通信配信	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 155
2. 論文標題 「はじめてのBL展」のこと	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アックス	6. 最初と最後の頁 156-157
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 152
2. 論文標題 水野英子『ファイヤー!』~ヨーロッパからアメリカへ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アックス	6. 最初と最後の頁 176-177
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 三浦建太郎という溶鉱炉	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書『ベルセルク精読』	6. 最初と最後の頁 25-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 出版媒体とマンガ表現 デジタルデバイス時代のマンガ演出をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書『マンガメディア文化論』	6. 最初と最後の頁 347-390
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジェームズ・ウェルカー	4. 巻 1
2. 論文標題 Introduction: Boys Love Media in Its Asian Transfigurations	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書『Queer Transfigurations: Boys Love Media in Asia』	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジェームズ・ウェルカー	4. 巻 1
2. 論文標題 Afterword: Boys Love as a World-Shaping Genre	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書『Queer Transfigurations: Boys Love Media in Asia』	6. 最初と最後の頁 272-277
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジェームズ・ウェルカー	4. 巻 1
2. 論文標題 まえがき	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書 Erica Friedman著 『By Your Side: The First 100 Years of Yuri Anime and Manga』	6. 最初と最後の頁 5 - 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジェームズ・ウェルカー	4. 巻 1
2. 論文標題 Program Note : 『縁側のメタモルフォーゼ』 (英題 : 『BL Metamorphosis』)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 英国「国際交流基金同作上映パンフレット	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長池一美	4. 巻 23(2)
2. 論文標題 An Analysis of Frame Structures in LGBTQ-themed Manga: How the (Im)permeability of Manga Frames Enhances LGBTQ Manga Characterization, Design, and Narrative	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Comic Art	6. 最初と最後の頁 373-382
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長池一美	4. 巻 15 (1)
2. 論文標題 Male Love for BL, Shota and Otoko no ko Characters: Japanese Alternative Masculinities Mediating Different Modes of Existence	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Mechademia second ark	6. 最初と最後の頁 147-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長池一美	4. 巻 61
2. 論文標題 War-Themed Shoujo Manga as a Site for Female Subjectivity: An Aesthetic Analysis of Mothers and Daughters Narrating War	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 U.S.-Japan Women ' s Journal	6. 最初と最後の頁 76-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1353/jwj.2022.0003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長池一美	4. 巻 1
2. 論文標題 Queer Seduction in Japanese Essay Manga: An Analysis of Manga Physicality and Gay, Lesbian and Fujoshi Eroticism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Graphic Novels and Comics	6. 最初と最後の頁 1 - 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/21504857.2022.2082501	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長池一美	4. 巻 1
2. 論文標題 n the Psychology, Physicality, and Communication Strategies of Male Fans of BL in East Asia: A Cross-Cultural Analysis of Men ' s Desires to Become Fudanshi	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書James Welker編 Queer Transfigurations: Boys Love Media in Asia	6. 最初と最後の頁 243-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田仁	4. 巻 1
2. 論文標題 思想 / 実践の「乗り物」として生きる (南定四郎氏口述解説) ほか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 図書『躍動するゲームーブメント』	6. 最初と最後の頁 3-206, 413-435
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田仁	4. 巻 1
2. 論文標題 石田仁・佐藤麻衣「BL読者／非読者に対する調査 報告書」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Research Map「資料公開」 <a href="https://researchmap.jp/ishidahitoshi/published_works">https://researchmap.jp/ishidahitoshi/published_works</a>	6. 最初と最後の頁 1-2; 10-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石田仁	4. 巻 2
2. 論文標題 迫真の演技と旧市街(オールドタウン)の映像美がくるおしいほど人を魅了する I Told Sunset About You (僕の愛を君の心で訳して)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 タイドラマ fan BOOK!	6. 最初と最後の頁 98-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田仁 (インタビュー)	4. 巻 2023.8
2. 論文標題 矛盾を抱えながらも...変わりつつあるタイ社会にLGBTQ+当事者が見た希望 (ケート・クランピブーン×石田仁)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 COSMOPOLITAN (Web記事)	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 53-3
2. 論文標題 近藤聡乃のからくり箱	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 66-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 フロンティアを拓く～遠くまで見える女(ひと)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 KAWADEムック 総特集 大和和紀	6. 最初と最後の頁 165-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 ヒューマンイズムの「外」へ～常に外部を描き続ける作家諫山創	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『進撃の巨人』という神話	6. 最初と最後の頁 45 - 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 (書評)トミヤマユキコ『少女マンガのサイコ女子考』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 (書評)大串尚代『立ち止まらない少女たち <少女マンガ>的想像力のゆくえ』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海道新聞	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 (書評) 貞包英之『サブカルチャーを消費する』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 産経新聞	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジェームズ・ウェルカー	4. 巻 46
2. 論文標題 Mark McLelland and Queer Careers in Japan Studies	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Intersections: Gender and Sexuality in Asia and the Pacific	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ジェームズ・ウェルカー & ベラ・マッキー 編著	4. 巻 46
2. 論文標題 (ラウンドテーブル) Queering our Worlds: Remembering Mark McLelland	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Intersections: Gender and Sexuality in Asia and the Pacific	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長池一美	4. 巻 46
2. 論文標題 The Future of Queer Manga Studies: Censorship and Communicative Rationality	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Intersections: Gender and Sexuality in Asia and the Pacific	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長池一美	4. 巻 23(2)
2. 論文標題 An Analysis of Frame Structures in LGBTQ-themed Manga: How the (Im)permeability of Manga Frames Enhances LGBTQ Manga Characterization, Design, and Narrative	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Comic Art	6. 最初と最後の頁 373-382
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田仁	4. 巻 3
2. 論文標題 ハッテン場論はどこへ向かうのか：排除、賛歌、包摂のはざままで	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Over	6. 最初と最後の頁 34-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田仁	4. 巻 109
2. 論文標題 第6回犯罪不安感調査回収票にみる混合モード（郵送・ウェブ・訪問）の検討：属性・地域社会との関わりを中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新情報	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石田仁	4. 巻 1
2. 論文標題 南定四郎さん：語りによる自己の”変転”、その思想と実践」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 性的マイノリティの語りとアーカイブデジタル報告書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 第1章 少年愛・JUNE / やおい・BL ~それぞれの呼称の成立と展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BLの教科書	6. 最初と最後の頁 2 - 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田亀源五郎 / 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 インタビュー：BLマンガとゲイコミック	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BLの教科書	6. 最初と最後の頁 152-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 C98
2. 論文標題 世界マンガ紀行・メキシコのBLイベント!!	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 AIDE新聞：コミックマーケットカタログ	6. 最初と最後の頁 CD-ROM
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里 (インタビュー)	4. 巻 1
2. 論文標題 進化・深化するBL文化：『風と木の詩』から『きのう何食べた?』まで ポーズラブは社会を変えるか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nippon.com	6. 最初と最後の頁 1 - 3 (WEB)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 149
2. 論文標題 タイBLマンガことはじめ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アックス	6. 最初と最後の頁 168 - 169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 (解説)一刀彫の肖像	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 島崎今日子『だからここにいる～自分を生きる女たち』	6. 最初と最後の頁 250 - 256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Welker	4. 巻 13-1
2. 論文標題 Introduction: Queer(ing) Japanese Popular Culture	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Mechademia: Second Arc	6. 最初と最後の頁 1~5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5749/mech.13.1.0001	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジェームズ・ウェルカー & Fen Garza and Kristene Michelle Santos,	4. 巻 13-1
2. 論文標題 Queering Fandoms from the Periphery? A Conversation between Queer Fan Event Organizers in Mexico and the Philippines	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Mechademia: Second Arc 13	6. 最初と最後の頁 119-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5749/mech.13.1.0119	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジェームズ・ウェルカー	4. 巻 1
2. 論文標題 海外におけるBL文化の広がりと海外の研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BLの教科書	6. 最初と最後の頁 94-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジェームズ・ウェルカー	4. 巻 1
2. 論文標題 Yuri	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Media and Popular Culture (An Open-Access Digital Initiative of the University of Tokyo)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長池一美	4. 巻 1
2. 論文標題 堀あきこ『欲望のコード』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ブックガイドシリーズ基本の30冊 マンガ・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 162-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長池一美・大城房美	4. 巻 31
2. 論文標題 魔夜峰央試論：少女マンガとBL (ボーイズラブ)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 筑紫女学園大学 人間文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 35-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長池一美	4. 巻 1
2. 論文標題 Kumota Haruko Boys Love	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Media and Popular Culture (An Open-Access Digital Initiative of the University of Tokyo)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石田仁	4. 巻 1
2. 論文標題 安倍政権が行った3つの性的マイノリティ政策と、行わなかった数々のこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『wezzy』2020年10月26日.	6. 最初と最後の頁 WEB
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石田仁・岩本健良・釜野さおり	4. 巻 1
2. 論文標題 同性婚に関する意識調査 調査報告書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Marriage for All Japan	6. 最初と最後の頁 WEB
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 1
2. 論文標題 「おっさんずラブ」という分岐点」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『BLが開く扉』	6. 最初と最後の頁 131-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 C97
2. 論文標題 世界マンガ紀行・台湾編	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 AIDE新聞：コミックマーケットカタログ	6. 最初と最後の頁 1312-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 12月号
2. 論文標題 『男の口紅』再考～BLとの比較で考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アックス	6. 最初と最後の頁 114-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 C96
2. 論文標題 大英博物館で日本マンガ展！	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 AIDE新聞：コミックマーケットカタログ	6. 最初と最後の頁 1314-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本由香里	4. 巻 5月臨時増刊号
2. 論文標題 ここからすべては始まった-橋本治の少女マンガ論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ユリイカ 総特集：橋本治	6. 最初と最後の頁 88-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 ジェームス・ウェルカー	4. 巻 1
2. 論文標題 序：ボーイズラブ (BL) とそのアジアにおける変容・変貌・変化(トランスフィギュレーション)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『BLが開く扉』	6. 最初と最後の頁 9-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジェームス・ウェルカー	4. 巻 15
2. 論文標題 It Should Be Stunning: Thoughts on Gender, Gender Studies, and the Future	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Gender and Sexuality	6. 最初と最後の頁 83-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長池一美	4. 巻 1
2. 論文標題 「腐男子になる」欲望：東アジアにおける異性愛男性BLファン比較研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『BLが開く扉』	6. 最初と最後の頁 77-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田仁	4. 巻 1
2. 論文標題 東京・新宿のゲイ・シーンにおける出会いと多様性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『BLが開く扉』	6. 最初と最後の頁 151-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田仁	4. 巻 1
2. 論文標題 ハッテン場：言葉を排した悩めるゲーム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 LGBTのひろば：ゲイの出会い編	6. 最初と最後の頁 137-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田仁	4. 巻 1
2. 論文標題 アプリ：インストールからリアルまで	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 LGBTのひろば：ゲイの出会い編	6. 最初と最後の頁 128-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田仁	4. 巻 93
2. 論文標題 性的マイノリティの安全な出会い：SNS以前・以後の歴史を振り返る	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 60-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田仁	4. 巻 491
2. 論文標題 学校現場と性的マイノリティ：教職員にできること	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本教育	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田仁	4. 巻 1
2. 論文標題 ハッテン場	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『クィアと法：性規範の解放／開放のために』	6. 最初と最後の頁 75-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田仁・沢部ひとみ・谷口洋幸・三橋順子・山縣真矢	4. 巻 5
2. 論文標題 「日本のLGBT30年史」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Beyond	6. 最初と最後の頁 11-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計126件（うち招待講演 67件／うち国際学会 54件）

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 はじめに：概要の報告
3. 学会等名 国際シンポジウム「<BL>の国際的な広がり、各国のLGBTQ」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 BLファンとゲイ当事者の共同空間としての『Roman June』
3. 学会等名 国際シンポジウム「<BL>の国際的な広がり、各国のLGBTQ」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 ROMAN JUNE Magazine as a Shared Space of Community for Gay Men and Boys Love Fans
3. 学会等名 AAS (Association of Asian Studies) / アメリカ・ボストン (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 シンポジウム：再検討「少女マンガ」史
3. 学会等名 日本マンガ学会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 『進撃の巨人』の系譜と、<外部>への視線
3. 学会等名 ハンガリー国際交流基金・チェコ大使館・オモロウツ大学 (計3回講演) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 Women Loving: The History of "Yuri" (=Girls' Love) Manga
3. 学会等名 Asia Pop! 2023 (University of Idaho) / アメリカ・アイダホ (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 パネル「アニメ・マンガ女性ファンとビジネスの歴史」
3. 学会等名 IMART (国際マンガ・アニメ祭 Reiwa Toshima) (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 性別を超える:マンガで学ぶジェンダー
3. 学会等名 美濃市人権問題市民啓発講演会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 少女マンガ表現の成立と発展:70~80年代を中心に
3. 学会等名 小磯記念美術館・青池保子展イベント (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 近藤聡乃展「ニューヨークで考え中」対談
3. 学会等名 ミズマアートギャラリー (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 デジタルデバイス時代のマンガ表現・マンガビジネス
3. 学会等名 日比谷図書館・日比谷カレッジ（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 シンポジウム「見田宗介 / 真木悠介を継承する」
3. 学会等名 東京大学教養学部「未来への遺産」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 From Herbivore Boys to Genderless Boyfriends
3. 学会等名 Y/Con（フランス・パリ）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 BL文化の海外への広がりとはLGBT
3. 学会等名 大東文化大学社会学研究所（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 マンガを通して考えるLGBT・人権・移民
3. 学会等名 東京都人権啓発センター講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 「少女マンガスタイル」の成立と展開
3. 学会等名 国際交流基金バンコク日本文化センター公開トークイベント「少女マンガ：日本の少女マンガの歴史と影響及びタイでの新しいトレンド」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 日本におけるBLの歴史
3. 学会等名 チュラロンコン大学セミナー「日本のポップカルチャーとLGBTQ+」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 企画・司会・コメント「The Socio-Political Dynamics of the Danmei Genre and Its Fans: Boys Love Media in and Beyond China」
3. 学会等名 AAS in Asia(Association for Asian Studies)（国際学会）
4. 発表年 2024年



1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 司会「Reinterpreting Gender Dynamics in Contemporary Japanese Visua」
3. 学会等名 AAS in Asia(Association for Asian Studies) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 Trans* Identity among Overseas Fans of Boys Love (BL) and Yuri Media
3. 学会等名 イタリア・ボローニャ大学「Le culture pop giapponesi: seminario di traduzione e localizzazione」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 Overseas Trans* Fans of BL, Yuri, and Trans Media
3. 学会等名 国際シンポジウム「<BL>の国際的な広がり、各国のLGBTQ」(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 コメンテーター「海外のファンイベント」
3. 学会等名 国際シンポジウム「<BL>の国際的な広がり、各国のLGBTQ」(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 企画ラウンドテーブル「Perspectives on the Global Consumption and Transfiguration of Japanese Media:
3. 学会等名 EAJS (European Association of Japanese Studies) / ベルギー・ヘント市 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 Invading Femininities: Embodied Nationalism in Contemporary Japan
3. 学会等名 AAS in Asia/韓国・大邱 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 パネル司会「Reconceptualizing Adaptations through BL」
3. 学会等名 Mechademia / 京都 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 パネル司会「Transnational BL」
3. 学会等名 Mechademia / 京都 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 企画・司会「For the Gays? Intersections between the Boys Love (BL) Genre and LGBTQ Issues in East and Southeast Asia
3. 学会等名 AAS (Association of Asian Studies) / アメリカ・ボストン (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 海外におけるBLや百合の広がりトランス、ノンバイナリーのファンとその関係性
3. 学会等名 大阪セクマイ大会2023パネル「LGBTQとB L」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 Boys Love (BL) and Yuri: From Domestic Genres to Global Queer Fandoms
3. 学会等名 立命館大学 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 An Introduction to the Boys Love (BL) Genre
3. 学会等名 同志社大学・スタンフォード日本センター セミナー「Queer Culture and Life in Japan」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 Genre Slippage, Gender Slippage: Overseas Consumption of Boys Love and Yuri and Gender Identity
3. 学会等名 BAJS (British Association for Japanese Studies) パネル「Gender and Sexuality in Culture: Modes, Postures, Spaces, and Categories」(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 Boys Love (BL) and Yuri Media, from Niche Japanese Genres to Queer Global Fandoms
3. 学会等名 フィリピン・デラサール大学 日本研究会(学生のサークル)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 BL in Academia' or 'Academia in BL'
3. 学会等名 オンライン・ファンイベント Casa Con
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 The History of Boys Love: Love between Beautiful Men (Mostly) for Female Fans in Japan
3. 学会等名 ファンイベントYaYuCo ドイツ・ダッハウ市
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 My Notes and Pics from BL, Yuri, and Other Queer Fan Events around the World
3. 学会等名 ファンイベントYaYuCo / ドイツ・ダッハウ市
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 BL Studies: Academic Perspectives & Your Questions
3. 学会等名 オンライン・ファンイベント Citrus Con
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 Transfiguracoes; Midia boys love na Asia
3. 学会等名 オンライン・ファンイベント Blymecon / ブラジル
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 パネル (& Erica Friedman) : 「Researching BL and Yuri: A Conversation」
3. 学会等名 オンライン・ファンイベント Casa Con 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 BL, Yuri, and Trans* Identities Overseas
3. 学会等名 Y/Con / フランス・パリ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 ブックインタビュー 『Queer Transfigurations: Boys Love Media in Asia』
3. 学会等名 ポッドキャスト: 「New Books in East Asia (New Books Network)」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 Overseas Trans* Fans of BL and Yuri
3. 学会等名 オンライン・ファンイベント FujoCon
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 Are There Any Texts in BL Studies? Rethinking Narrativity of BL Ethnicity in Japan and South East Asia
3. 学会等名 アングレーム国際フェスティバルパネル「WOMEN ' S MANGA: Toward an Expanded Field Crossing Boundaries」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 東南アジアにおけるBL受容
3. 学会等名 国際シンポジウム「<BL>の国際的な広がり」と、各国のLGBTQ（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 An Analysis of Frame Structures in LGBTQ-themed Manga: How the (Im)permeability of Manga Frames Enhances LGBTQ Manga Characterization, Design, and Narrative,
3. 学会等名 AAS in Asia / 韓国・大邱（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 田亀源五郎の『弟の夫』から見るクイアマンガ研究の可能性と課題
3. 学会等名 日本マンガ学会九州マンガ交流部会第73回例会 & YARN研究会合同開催 第11回女性MANGA国際会議（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 Reading Boys Love as a Pro-LGBTQ Genre: A Study of Japanese Gay and Bisexual Male BL Fans
3. 学会等名 AAS (Association of Asian Studies) / アメリカ・ボストン（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 Queer Seduction in Japanese 'Essay Manga': An Analysis of Manga Physicality and Gay and Lesbian Eroticism
3. 学会等名 Symposium: Contextualising the body touch, smell, gaze movement, ownership, spectacle, control, time and place (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 Mechademia: Critical Vistas Upon Global Asian Studies
3. 学会等名 AAS Digital Dialogues (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 Japanese Men's Desires and Hopes to "Become" Fudanshi ("rotten boys"), Shota and Otoko no ko: Mediating Utopian/Dystopian Motherhood
3. 学会等名 チュラロンコン大学セミナー「日本のポップカルチャーとLGBTQ+」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 「少女マンガ：越境する性・ジェンダー・セクシュアリティ」
3. 学会等名 国際交流基金バンコク日本文化センター公開トークイベント「少女マンガ：日本の少女マンガの歴史と影響及びタイでの新しいトレンド」(招待講演)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 石田仁
2. 発表標題 BLファンの意識に関する調査報告：日本国内のゲイ/バイセクシュアル男性向け調査編
3. 学会等名 国際シンポジウム「<BL>の国際的な広がり、各国のLGBTQ」明治大学（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石田仁
2. 発表標題 日本におけるLGBT+の状況
3. 学会等名 チュラロンコン大学セミナー「日本のポップカルチャーとLGBTQ+」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 シンポジウム『BLとメディア』企画「第一部BLのメディア史～少年愛・JUNE・やおい」司会
3. 学会等名 日本マンガ学会オンラインシンポジウム（20回大会シンポ予定だったもの）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 From Crossdressing Boys in 1970s Manga to Gender-Bending Boys in 21st Century Japan
3. 学会等名 AAS年次大会オンラインパネルBlurring the Gender Binary in Contemporary Japanese Visual Media and Fandoms（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 Roman June As a Shared Space of Community for Gay Men and Boys Love Fans
3. 学会等名 AAS年次大会パネルFor the Gays? Intersections between the Boys Love (BL) Genre and LGBTQ Issues in East and Southeast Asia (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 『鬼滅の刃』の魅力とジェンダー
3. 学会等名 鹿児島県男女共同参画週間フォーラム講演会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本由香里・青識亜論・トイアンナ/司会・坂爪真吾
2. 発表標題 『鬼滅の刃』とフェミニズム
3. 学会等名 これからの「フェミニズム」を考える白熱討論会 第3回(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 女性向け性表現の歴史
3. 学会等名 女性と性表現 表現者・ファンの視点から 歴史編(オンライン)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本由香里・黒木夏兒（司会／原正人）
2. 発表標題 （対談）『綺譚花物語』から知る台湾百合漫画の世界
3. 学会等名 サウザンコミックス第4弾『綺譚花物語』関連イベント（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 LGBT表現の歴史と現在
3. 学会等名 立憲アカデミー兵庫「ジェンダーと社会」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田さをり（司会／藤本由香里）
2. 発表標題 中国BLの現状について
3. 学会等名 明治大学大学院国際日本学研究科特別講義
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上野千鶴子・牛尾奈緒美（企画・コーディネーター／藤本由香里）
2. 発表標題 シンポジウム「社会に蔓延するミソジニー」
3. 学会等名 国際日本学部・情報コミュニケーション学部ジェンダーセンター共催特別シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 (企画・司会・ディスカッサント) For the Gays? Intersections between the Boys Love (BL) Genre and LGBTQ Issues in East and Southeast Asia
3. 学会等名 AAS年次大会パネルFor the Gays? Intersections between the Boys Love (BL) Genre and LGBTQ Issues in East and Southeast Asia (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 (ディスカッサント) Global Japan and Academia during COVID 19 (座談会)
3. 学会等名 兵庫大学シンポジウム “Global Japan and Academia during COVID 19” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカ
2. 発表標題 Cool Japan, Queer Japan? On Global Fandoms of Boys Love (BL) and Yuri Media and Local LGBTQ Identities
3. 学会等名 ラ・フォスカリ大学オンライントーク (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 国内外のファンイベントにおける百合メディアとファンダム
3. 学会等名 日文研オンラインシンポジウム「日本のサブカルチャーと多様性 グローバルな多様化社会に貢献する国際日本学の研究」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 (ディスカッサント) Cross-Strait Cultures: Performance, Media, and History
3. 学会等名 コロンビア大学&UCSD共催 Queering the Straits: Unruly Subjects across Modern Korean and Japanese Studies series (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 Boys Love and Yuri as Trans-Formative: Overseas Consumption of BL and Yuri Media and Gender Identity
3. 学会等名 AAS年次大会オンラインパネルBlurring the Gender Binary in Contemporary Japanese Visual Media and Fandoms (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 (企画・司会) From Cool Japan to Cruel Japan: A Roundtable on The Multilayered Effects of Japan's Extreme Border Restrictions on Japanese Studies
3. 学会等名 AAS special late-breaking session (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 The Yuri Genre in Its Transnational Permutations
3. 学会等名 Mechademia パネル: Transporting Yuri across Borders (オンライン) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー&エリカ・フリードマン
2. 発表標題 Fan convention talk: “ How BL and Yuri Has Grown over the Decades
3. 学会等名 Casa Con ( オンライン・ファンイベント ) ( 招待講演 )
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー、エリカ・フリードマン、ヴェレーナ・マーサ
2. 発表標題 Fan event speaker: “ Yuricon 20th Anniversary Discussion Event ”
3. 学会等名 Yuri-con ( オンライン・ファンイベント ) ( 招待講演 )
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 BL Gets Around: Notes from My Research Travels
3. 学会等名 Fujococon ( オンライン・ファンイベント ) ( 招待講演 )
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 Reading Boys Love As a Pro-LGBTQ Genre: A Study of Japanese Gay and Bisexual Male BL Fans
3. 学会等名 AAS年次大会パネルFor the Gays? Intersections between the Boys Love (BL) Genre and LGBTQ Issues in East and Southeast Asia ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 An Analysis of Frame Structures in LGBTQ-themed Manga: How the (Im)permeability of Manga Frames Enhances LGBTQ Manga Characterization, Design and Narrative
3. 学会等名 Popular Culture Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 (基調講演) Queer Seduction in Japanese Essay Manga: An Analysis of Manga Physicality and Gay, Lesbian and Fujoshi Eroticism
3. 学会等名 INTERNATIONAL COMICS AND GRAPHIC NOVEL AND INTERNATIONAL BANDE DESSIN; SOCIETY JOINT CONFERENCE (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長池一美、デボラ・シャムーン、エリカ・フリードマン、ミア・ルイス
2. 発表標題 Shojo Manga: The Power and Influence of Girls' Comics
3. 学会等名 ニューヨーク国際交流基金 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石田仁
2. 発表標題 性的マイノリティと共に生きようとしているのは誰か：女性のBL読者／非読者へのWEB調査から(2)
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会 (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤麻衣 (研究協力者)
2. 発表標題 「腐女子」とは いかなる人びとか : 女性のBL読者 / 非読者への WEB調査から
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会 (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石田仁
2. 発表標題 (Inter)national Development and the Origins of Hattenba (Cruising Spaces)
3. 学会等名 コロムビア大学 & UCSD 共催 Queering the Straits: Unruly Subjects across Modern Korean and Japanese Studies series (オンライン) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石田仁
2. 発表標題 語りによる自己の " 変転 "、その思想と実践 : 南定四郎さん
3. 学会等名 性的マイノリティの語りとアーカイブ : 研究助成報告会 (オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石田仁
2. 発表標題 性的マイノリティをめぐる日本の40年
3. 学会等名 Transgender Live Vol.1、高円寺バンディット、主催Transgender Japan
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 藤本由香里・守如子・堀あきこ・西原麻里・石川優
2. 発表標題 ラウンドテーブル：BLを研究すること 『BLの教科書』から考える
3. 学会等名 日本マンガ学会オンライン研究発表会（コロナのため。大会に準じる）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤本由香里、石田美紀、堀あきこ、西原麻里（司会・守如子）
2. 発表標題 BLの歴史
3. 学会等名 ロフトプラスワンWEST 『BLの教科書』出版イベント（3日間開催） 第1部
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 Japanese Pop Culture and LGBT+:The historical evolution of Boys Love manga
3. 学会等名 チュラロンコン大学セミナー "Japanese Pop Culture and LGBT+"（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 「少女マンガ」スタイルの成立と展開：50～70年代を中心に
3. 学会等名 国際交流基金バンコク日本文化センター公開トークイベント「少女マンガ：日本の少女マンガの歴史と影響及びタイでの新しいトレンド」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 ラウンドテーブル (coorganizer) : Queering Our Worlds: A Tribute to Mark McLelland
3. 学会等名 AAS Digital Dialogue (オンライン) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ジェームズ・ウェルカー
2. 発表標題 (Discussant) Boys Love in Southeast Asia: Charting the Queer Potentials of Newly Emergent Media, Celebrity and Fandom Cultures
3. 学会等名 East Asian Popular Culture Association Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 グローバル化するBL - 日本・海外BL、外国人表象、規制」、長池一美 (於筑紫女学園大学)
3. 学会等名 筑紫女学院大学 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 越境するBL 日本と東南アジアの事例から
3. 学会等名 国際交流基金バンコク日本文化センター J-Talk: Diggin' Culture #10 (オンライン) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 ラウンドテーブル: Queering Our Worlds: A Tribute to Mark McLelland
3. 学会等名 AAS Digital Dialogue (オンライン) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 ポピュラーカルチャーから見る日本のオルタナティブ・マスキュリニティーズ
3. 学会等名 チュラロンコン大学 セミナー "Japanese Pop Culture and LGBT+" (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 少女マンガ: 越境する性・ジェンダー・セクシュアリティ
3. 学会等名 国際交流基金バンコク日本文化センター公開トークイベント「少女マンガ: 日本の少女マンガの歴史と影響及びタイでの新しいトレンド」 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石田仁・牧村朝子
2. 発表標題 宅コスして真面目に学ぶ多様な性のコト
3. 学会等名 静岡市女性会館 (オンライン) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石田仁
2. 発表標題 中高年の同性婚に対する意識
3. 学会等名 日本社会学会第93回大会自由報告
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石田仁
2. 発表標題 同性婚
3. 学会等名 性的マイノリティについての意識：2019年（第2回）全国調査（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石田仁
2. 発表標題 日本におけるLGBT+の状況
3. 学会等名 チュラロンコン大学セミナー "Japanese Pop Culture and LGBT+"（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 少女マンガの中の女性同士の愛
3. 学会等名 ソウル大学（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 LGBT表現における歴史と現在
3. 学会等名 中京大学(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 出版媒体とマンガ表現
3. 学会等名 早稲田大学ワークショップ「マンガの体験、メディアの体験」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 表現:「性別」の問い直し
3. 学会等名 明治大学ジェンダーセンター10周年記念パネルセッション(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 Sexual Differentiations:Beyond the Gender Binary?
3. 学会等名 Oops! Summer Festa(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 Love and Desire between women in Girls' Manga
3. 学会等名 Japan Foundation (London) 主催・大英博物館マンガ展関連講演会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本由香里
2. 発表標題 The Heyday of Cross-dressing Boys : 21st Century Boys' Manga
3. 学会等名 Queeas&Comics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 Japanese Boys Love (BL) Media Transforming and Transformed by Gender and Sexuality around Asia "
3. 学会等名 シドニー大学 (決定していたがコロナにより中止) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 "Beyond Boys Love in Japan: Thoughts on Asian Transfigurations of BL Media "
3. 学会等名 ラ・トロープ大学 (メルボルン) (決定していたがコロナにより中止) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 “From Japan with (Boys) Love: BL Media and the Transfiguration of Gender and Sexuality in Asia”
3. 学会等名 ソウル大学 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 To Asia with (Boys) Love: BL Media and the Transfiguration of Gender and Sexuality”
3. 学会等名 東京大学 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 “ ‘Boys Love’ Manga, Anime, and More in Asia: Transforming Media, Gender, and Sexuality
3. 学会等名 イベロアメリカ大学 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 “BL Media Transformed in Asia: From Shonen 'ai, Yaoi, and Boys Love to Danmei, Series Y, and Beyond”
3. 学会等名 台湾大学 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 “Boys Love (BL) Manga and Beyond: Tracing the History of a Very Queer Genre”
3. 学会等名 Oops! Summer Festa (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 “Boys Love, Yuri, & More: Tracing the History of ‘Queer’ (But Not Necessarily LGBT) Media in Japan”
3. 学会等名 Yurithon (Otakuthon)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 Boys Love? BL? Yaoi? Shonen 'ai? Or...?
3. 学会等名 アテネオ(・ド・マニラ)大学(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 Looking Outward, Looking Inward: Kiyooka Sumiko's Transnational, Transhistoric Lesbian Engagements”
3. 学会等名 AAS-In-Asia(国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 Kiyooka Sumiko and the Possibility of a Lesbian Gaze in Late 1960s Japan
3. 学会等名 サンフランシスコ州立大学 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 " It Should Be Stunning: Thoughts on Gender, Gender Studies, and the Future "
3. 学会等名 国際基督教大学 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 " The Transformative Power of Boys Love (BL) Media in Asia " (Jeremiah Lecture Series)
3. 学会等名 オレゴン大学 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 " What We Can Learn from the Circulation and Transformation of Boys Love (BL) Media around Asia "
3. 学会等名 Manga University of New York (series) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジェームス・ウェルカー
2. 発表標題 Queer Manga: History and Cultural Context
3. 学会等名 Queers & Comics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 “Japanese Men’s Desires and Hopes to “Become” Fudanshi (“rotten boy”), Shota and Otoko no ko : Mediating Utopian/Dystopian Motherhood”
3. 学会等名 シンガポール国立大学 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 “Are There Any Texts in BL Studies? Rethinking Narrativity of BL Ethnicity and Eroticism in Japan and South East Asia”
3. 学会等名 18th Annual International Conference on Japanese Studies学会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 (基調講演) “Japanese Men’s Desires and Hopes to “Become” Fudanshi (“rotten boy”), Shota and Otoko no ko : Mediating Utopian/Dystopian Motherhood”
3. 学会等名 Mechademia学会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 Questioning Female “Perversion” in Mori Mari’s Pre-BL Trilogy: The Emergence of Women Writing/Reading Male Homosexual Fantasies”
3. 学会等名 AAS-In-Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長池一美
2. 発表標題 Queer Manga: History and Cultural Context
3. 学会等名 Queers & Comics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石田仁・岩本健良・釜野さおり
2. 発表標題 「同性婚に関する意識調査結果 速報」
3. 学会等名 結婚の自由をすべての人に (Marriage for All Japan) 一周年記念行事
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石田仁
2. 発表標題 「ブルーボーイ裁判はどのように歴史語りされ何が語られなかったか」
3. 学会等名 中央大学 (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 ジェームズ・ウェルカー編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 University of Hawaii Press	5. 総ページ数 312
3. 書名 Queer Transfigurations: Boys Love Media in Asia (Asia Pop!)	

1. 著者名 石田仁編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 440
3. 書名 躍動するゲイ・ムーブメント	

1. 著者名 守如子・堀あきこ編（藤本由香里ほか論文11名＋ウェルカーほかコラム6名）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 306
3. 書名 BLの教科書	

1. 著者名 ジェームズ・ウェルカー編・著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 University of Minnesota Press	5. 総ページ数 180
3. 書名 Queer(ing) : Mechademia: Second Arc 13 vol.1	

1. 著者名 吉村和真、ジャクリーヌ・ベルント編（長池一美ほか執筆者11名）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 212
3. 書名 『ブックガイドシリーズ基本の30冊 マンガ・スタディーズ』	

1. 著者名 ジェームス・ウェルカー編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 304
3. 書名 BLが開く扉	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<ul style="list-style-type: none"> <li>・BL読者/非読者に対する調査 調査票および単純集計表（石田仁・佐藤麻衣）</li> <li>・BL読者/非読者に対する調査 報告書</li> </ul> <a href="https://researchmap.jp/ishidahitoshi/published_works">https://researchmap.jp/ishidahitoshi/published_works</a>  「<BL>の国際的な広がり」と、各国のLGBTQ」告知ページ <a href="https://www.meiji.ac.jp/nippon/info/2023/mkmht000000nkm5p.html">https://www.meiji.ac.jp/nippon/info/2023/mkmht000000nkm5p.html</a> 参考：「<BL>の国際的な広がり」と、各国のLGBTQ」取材記事（東京新聞） <a href="https://www.tokyo-np.co.jp/article/298189">https://www.tokyo-np.co.jp/article/298189</a>  参考：「はじめてのBL展」告知ページ <a href="https://kadcul.com/event/121">https://kadcul.com/event/121</a> 参考：「はじめてのBL展」取材記事（このほかにも取材記事多数） <a href="https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/bl-report-202306">https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/bl-report-202306</a>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	ウェルカー ジェームズ  (Welker James)  (40710174)	神奈川大学・国際日本学部・教授   (32702)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長池 一美  (Nagaike Kazumi)  (90364992)	大分大学・教育マネジメント機構・教授    (17501)	
研究分担者	石田 仁  (Ishida Hitoshi)  (40601810)	淑徳大学・地域創生学部・教授    (32501)	科研費スタート時点では、明治学院大学研究員だったが、2023年度から現職

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐藤 麻衣  (Sato Mai)	淑徳大学    (32501)	社会学的意識調査を研究分担者の石田と協力して実施。メインメンバーの一人といえる。

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 < BL > の国際的な広がり、各国のLGBTQ (英語名: LGBTQ Issues and the Globalization of "BL")	開催年 2023年 ~ 2023年
--	----------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------